

公益社団法人秋田県獣医師会平成28年度通常総会開催

平成28年6月17日（金）午後2時から、秋田市「イヤタカ」に於いて、多くの会員を始め、ご来賓の出席を得て公益社団法人として4回目となる通常総会が開催され、すべての議案が原案どおり可決・承認されました。

総会の司会は、志村常務が努め議長は秋田支部の金和浩（秋田県動物管理センター所長）会員が指名され、概略は次のとおりであります。

（1）開会のことば

佐藤林治副会長が開会を宣言した。

（2）物故会員に対し黙祷

司会の志村常務の進行により、昨年度ご逝去されました、3名の会員のご冥福を祈り、全員起立し黙祷を捧げた。

（3）会長挨拶

平成28年度の通常総会のご案内を申し上げましたところ、秋田県農林水産部次長の渡辺兵衛様を始め、お二人のご来賓にご出席をいただきました。また、会員の皆様方にも大変お忙しい中、ご出席をいただき心から感謝と御礼を申し上げる所でありたいです。

本日ご出席のご来賓方、さらには会員の皆様方には我々獣医師会の業務運営に對しましてご協力頂いていることに、この場をお借りして御礼を申し上げる所でありたいです。

さて、平成27年度の事業につきましては滞りなく事業を終了したと自負しております。

しかし、メイン事業である狂犬病予防注射の接種率につきましては平成19年度をピークに年々減少しており、その間、我々もいろいろな方法で接種率向上について努力してきましたがなかなか効果が上がらない状況で大変苦慮しております。

この狂犬病予防接種率につきましては全国的に減少しており、平成20年度以降4%づつ犬の飼育頭数が減少しているという現実もあります。

我々は何とかしてこの現象を食い止めながら愛護法にのっとり取り組んでいかなければならないと思っております。

今、日本獣医師会では特別委員会を設け狂犬病対策、それに並行しマイクロチップ装着の推進を図っているところであります。マイクロチップについては、愛護法が平成30年度に改正されますので平成29年度まで方向性を見出し、法律で定める方向で検討しているところであります。



砂原会長挨拶

また、平成28年2月26日から28日にかけて学術学会年次大会(秋田)が開催されました。昨年の12月までは、事前登録者の人数が少なく大変心配しておりましたが予想を上回る参加者があり盛会裏に終了しております。

学術学会年次大会は、秋田大会が34回目の大会でありましたが、33回までその地区の特色を出した市民公開講座等のプログラムはありませんでした。

今回、他県にはない秋田の三つの要素ということで「比内地鶏・秋田犬・白神山地」をテーマとした市民公開講座を開催しましたが非常に好評を得まして、来年2月に開催される石川県からも秋田大会を参考にしたいと言っておいております。

さらに、今年11月に福岡県で「One Health」の国際会議が開催されますが、その前哨戦となったのが秋田大会でのシンポジウムであり、世界獣医師会副会長の参加をいただき、世界に向けて秋田をアピール出来たと思っております。

いずれにしても、ここで終わったわけではなく今年から新しいスタイルで秋田県獣医師会を進めていかなければならないと思っております。その核となるのが「One Health」であると考えており、この「One Health」を核とした獣医師会の活動を行っていきたいと思っております。

(4) 秋田県獣医師会会長表彰

本間 仁美会員、中田 克平会員、須田 宏司会員、月澤 毅会員、
木村 貴美代会員、小林 俊博会員、菅野 労会員 (7名)



小林会員（表彰状授与）

(5) 来賓祝辞（秋田県農林水産部 渡辺兵衛次長）

本日は、公益社団法人秋田県獣医師会の通常総会にお招きをいただきまして、誠にありがとうございます。

佐藤部長が県議会の本会議中のため出席できませんでしたので、代わって私から一言あいさつ申し上げます。

まずもって、平成28年度の通常総会が会員多数の御出席により、このように盛会に執り行われましたこと、加えて、今年2月、秋田市で延べ四千人の参加者により開催された獣医学術学会年次大会が成功裏に終えたことを心からお祝い申し上げます。

砂原会長さんをはじめ、会員の皆様方には、日ごろから本県の畜産振興並びに公衆衛生の向上、さらには動物愛護活動など、広範な分野で、県政の推進に特段の御理解と御協力を賜り、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

また、先ほど栄えある表彰を受けられました皆様、誠におめでとうございませ

引き続き、県民生活の向上や地域社会の発展に御尽力くださいますようお願いいたします。

さて、畜産につきましては、先般発表されました平成26年度の産出額は米に次ぐ332億円と、前年に比べ6億円増加し、本県農業の大命題である複合型の生産構造への転換を図るうえで、最も期待されている作目であります。

その中で、畜産をめぐる情勢は、飼料価格の高止まりや素牛価格の高騰など、厳しいものがあるばかりでなく、TPPの大筋合意による先行きに対する不安も少なくない状況にあります。ピンチの今こそ生産基盤の強化を図る好機と捉え、施設整備などによる規模拡大や耕畜連携による飼料用米の利用拡大などを目指す取組が顕著になってきております。

県といたしましては、こうした意欲的な取組により県内各地で畜産を核とした地域活性化が図られるよう、国や県の事業などを活用しながら全面的に支援してまいりたいと考えております。

家畜衛生分野におきましては、口蹄疫や鳥インフルエンザが近隣諸国で継続発生

しておりますし、豚流行性下痢（PED）については、現在も全国的に散発しております。このような中、本県においては、生産者や関係者はもとより、皆様方の御尽力により、清浄状態を維持しており、この場を借りて、感謝を申し上げます。

このように、家畜の健康を守ることを通じて、健全な畜産経営を育成するという獣医師の役割は、極めて重要です。

とりわけ、家畜伝染病につきましては、皆様方による現場での監視と迅速な通報が初動防疫の要ですので、今後とも特段の御協力を賜りますようお願いいたします。

また、公衆衛生分野におきましては、日本は、世界でも数少ない狂犬病の清浄国であり、これを堅持するため、予防注射の徹底などの対策が最も重要と考えております。

引き続き、様々な機会を捉えて、犬の飼い主の皆様への啓発など、御協力をお願いいたします。

さらに、動物愛護関係では、昨年度から「動物にやさしい秋田推進事業」を進めております。今年度は、動物愛護のための拠点センターの設計に着手します。

さらに、県の施策として「動物にやさしい秋田」の実現を目指し、県民・ボランティアの協働による「犬猫の殺処分ゼロ」に向けた取組の充実を図ることとしております。

犬猫などの診療に携わっておられる会員の皆様方のお力添えはもとより、獣医師会として、動物愛護施策に対する御協力をお願いいたしますとともに、今年度から北秋田市の直営となりました「くまくま園」に対しましても、動物愛護の啓発拠点として、引き続き御支援をお願いいたします。

終わりにになりましたが、人々の生活が変化する中で獣医師の社会的責務は、益々、大きくなっております。今後とも、獣医師会におかれましては「One Health（ワンヘルス）」の理念のもと、人・動物・環境といった横断的な分野で重要な役割を果たしていただきますようお願いいたしますとともに、貴会のより一層の御発展と会員の皆様方の御健勝を御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

(6) 議長選出

議事に入る前に、本日の会員の出欠状況について志村常務から報告があった。

会員総数289名のうち、本人出席56名、委任状提出27名、書面表決97名合計180名、従いまして定款第19条の規定により本総会は成立している旨が報告された。

議事に入る前に、議長選任のため会長が仮議長に就き、議長の選任について諮ったところ、仮議長一任することについての承認を得たので、秋田支部の金和浩会員を議長とすることを提案し、異議なく承認された。

(7) 議事録署名人の選任及び書記の任命

議事録署名人については、議長に一任との提案がされたので、議長は、秋田支部から2名が指名され、異議なく承認された。

また、書記には事務局職員2名を任命した。

(8) 議事の経過概要及びその結果

- 第1号議案平成27年度事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認について上程し志村常務理事が総会資料に基づき説明した。

議長は質疑の前に宮腰代表監事に、監査報告を求め、宮腰監事は事業報告書が、定款及び事業計画書に従い、法人の状況を正しく示していること、財務諸表及び決算報告書は必要な事項を正しく示している旨の監査報告をした。

監査報告後、議長は第1号議案に質疑がないか諮った。

由利支部会員から財務諸表に対する注記5の日本獣医師会からの受取民間補助金について、学会年次大会の決算書では、委託費になっているので明確にして欲しいとの発言があり、志村常務理事から越智基金に関しては補助金として、日本獣医師会からは委託費として受けているとの回答があった。また、特定資産の東北大会等積立金に関してなど関連する質問もあった。その後、議長から、その他質疑がないか諮ったが、なかったため第1号議案は可決承認された。

- 第2号議案 役員の補充選任について、事務局へ説明を求めた。

志村常務理事から推薦区分9区全域理事について会長が推薦し、理事会の議決を得た秋田支部柿崎正博会員が立候補している。監事については理事推薦区分にかかるとの報告があった。

議長は立候補の状況を選挙管理委員長へ説明を求めた。

小玉選挙管理委員長は立候補の状況並びに経過について説明し、理事並びに監事立候補者ともに、定款第23条1項の役員定数、選任規程第9条別表1の定数を超えていないため選挙は実施されないことを報告した。

議長は理事候補者の名前を読み上げ賛否を諮った。

9区全域、柿崎正博会員が拍手をもって承認された。

理事推薦区分にかかるとの報告があった。高橋朝夫会員が拍手をもって承認された。

以上第2号議案は異議なく可決承認された。

- 第3号議案役員選任規程の一部改正（案）について事務局へ説明を求めた。

志村常務理事から総会資料に基づき一部改正（案）の変更箇所を説明した。

議長は、このことについて質疑がないか諮った。

会員から第5条（3）監事は正会員の推薦を得た者とあるが、会員外の民間の登用が閉ざされてしまうのかとの質問に対し、志村常務理事からあくまでも推薦区分が1区から8区の正会員の部分なので、会員外の方となると、推薦区分が全域又は会員外のところに当てはまるとの説明があった。

議長は、ほかにはないか諮ったが、なかったため第3号議案は可決承認された。

以上、全ての提出議案審議が終了した。

- 報告事項1として平成28年度事業計画、収支予算書（損益ベース）について、議長は事務局の報告を求めた。

志村常務理事が総会資料に基づき説明し、議長は報告事項1について質疑を諮った。秋田支部会員からI.公益目的事業1に関して「動物由来感染症」と「食中毒菌感染症」と記載されているが、これに多剤耐性菌を加えてはどうかという発言があり、砂原会長から今年度世界大会ワンヘルスが行われるが、世界獣医師会が耐性菌について取り組んでいなかったことを受けて、年次大会で問題提起された旨の報告があり耐性菌は今後取り組んでいかなければならないので、理事会を含めて検討していくとの回答があった。

また、由利支部会員からワンヘルスについて、具体的な進捗状況はどうなっているのかとの質問に対し、志村常務理事から平成27年10月に人獣共通感染症に係る医師会との連携に関して委員会を立ち上げた。各関係箇所から7・8人で委員を選定していること、更に医師会と獣医師会各々の利点を考慮しながら現在進めていること、先般医師会の事務局長と打合せをして、6月20日医師会の感染症部会の改選があることなどが報告された。

さらに、砂原会長から日本獣医師会ではシンポジウムの開催、医師会、獣医師会で人獣共通感染症ハンドブックの作成も検討している。医師会では開業している病院に、狂犬病のポスターを貼ることも検討しているとの報告があった。

議長は、ほかにないか諮ったがなかった。

- 報告事項2として平成27年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（秋田）の実績並びに収支決算書について、事務局の報告を求めた。

志村常務理事から総会資料に基づき説明があり、議長は宮腰代表監事に監査報告を求め、宮腰監事から収支決算書が、学会運営規定に基づき、処理が適正であることを認めたとして監査報告があった。

議長は報告事項2について質疑を諮ったところ、由利支部会員から記録集作成について、今後二度とない秋田での大きな大会だったので、DVDなどを作ってもっと記録を残したらどうかという発言に対し、志村常務理事からケーブルテレビの映像を元に検討する旨を述べた。また、同会員から内訳書に記載されている未収金、未払い金が決算書に入っていないので科目に起こすべきではないかという質問に対し、志村常務理事から最終決算の時にあらためる旨を述べた。さらに、会員から残額に関して、できるだけ記念事業関係に使っていただき、熊本への寄付金は最終的に残った金額にしてもらいたい旨の発言があった。更に、監事に対し、年次大会の決算書報告事項ではなく、議案ではないか。また、会長に日本獣医師会の役員として、主催にしては委託費がもう少しあってもいいのではないか。学会運営規程の見直しをしていただきたいとの発言があり、砂原会長からこのままではどこの県も手を上げないので、現段階で三役でその話を検討しているところであるとの回答があった。

議長は、ほかに質問等はないか諮ったがなかったのですべての議事が終了した旨を述べ、議長の職を解いた。

■ 新役員の理事会を開催する為、総会の一時休会を宣言した。

総会を再開し、第3回理事会で定款第24条第2項の規定並びに一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第90条第3項により、常務理事に柿崎正博会員、監事に高橋朝夫会員が就任した旨を報告された。

(9) 閉会宣言

明石副会長が午後3時50分に閉会を宣言した。

日本獣医師会会長感謝状受賞

第73回公益社団法人日本獣医師会通常総会が平成28年6月22日（水）13時30分から、東京都「明治記念館」において開催されました。

会長及びご来賓の挨拶が終了した後、今年度の日本獣医師会会長感謝状の授与式が行われ、平成27年度獣医学術学会年次大会（秋田）の開催にあたり、運営を受託し獣医学術の振興・普及に顕著な功績があった者として、公益社団法人秋田県獣医師会が表彰されました。



受賞後の記念写真

